



Crestron DigitalMedia™を導入することにより、マサチューセッツ工科大学スローン校は、数年先の技術革新を見通したAVシステムを導入しました。

マサチューセッツ工科大学（MIT）スローンビジネススクールは、世界トップクラスのビジネススクールです。常に最先端の調査を行い、世界 60 カ国から集まった優秀な学生達に、マネジメントに関する教育をしています。

MIT スローン校の代表的な建物である E62 は、ディスカッション・チームワーク・そして経験から学ぶ事に重きを置くスローン校独特のマネジメント教育モデルのために設計されました。E62 は、MIT スローン校の学部全体を 1 つの建物にまとめ、それぞれの規律や制約を超えた強力なコラボレーションとリサーチ能力を実現するために建てられたのです。

またこの建物は、MIT 内で最も自然を取り入れている建物としても有名です。太陽光に反応する自動ウィンドウシェードや屋上緑化、また、天候に合わせて機能する事で水の使用量を最小限に抑える事ができる灌漑システムなど、最先端のエコロジーシステムのショールームでもあります。

この新しい建物には、AV システムがインストールされた 8 つの教室と講義室、そして 40 の学習室、8 つの会議室、そしてエクゼクティブ用レストランが 1 つと、ロビーレストランエリアで構成されています。この新しい施設を作るに当たっての目標は、長い期間使用できる建物を作る事でした。

さらに、教室で使うに当たり、ユーザーフレンドリーであると同時に最も洗練されたシステムを取り入れるという事でした。

「MIT 側は、長い期間使用できる建物を作りたいと考えていました。」MIT スローン校アソシエイトディレクター、技術コンサルティング・サポートサービスのウェスリー・エッサー氏は述べます。



ソリューション

マサチューセッツ州ケンブリッジに拠点を置くコンサルティング企業アセンテック社が新しい AV システムをデザインしました。また、マサチューセッツ州サドバリーに拠点を置くアドテック社が、構築、プログラムとインストールを行いました。

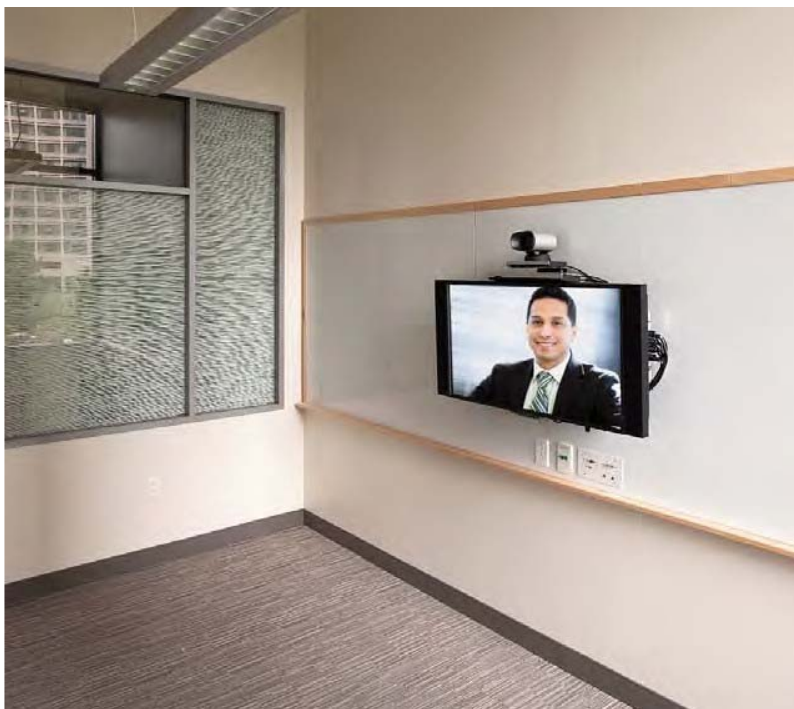
アドテック社は新しい AV システムを、古い建物である「タンクセンター」内の 4 つの講堂にもインストールしました。アドテック社がインストールしたのは、クレストロン DigitalMedia の技術を最大限に生かしたオールデジタルシステムです。

「クレストロンは、社内インフラを 1 から構築し直すのがとても大変な事だとわかっている会社です。」メルリ氏は述べます。

単一プラットフォームである Digitalmedia の基幹は、事実上デジタル、アナログ共に AV シグナルのどのような組み合わせでも差し込む事ができます。ディープカラー出力の非圧縮 1080p HD ビデオ、3D ビデオ、1900×1200 のコンピューター信号、さらに HD デジタルオーディオと全てのコントロール、データ、そして特別仕様されたシングルケーブルのイーサネット。この対応力と高いバンド幅によって、新しくインストールされたこのインフラがあるからこそ、これから将来に出てくるコンピューターやビデオ会議システムが必要とする、より高い解像度とより深い色合いにも対応し、取り扱う事ができるのです。

新しい施設を作るにあたっての目標は、長い期間使用できるものを作るという事でした。そして非常に洗練されているながらも、教室で使用するには可能な限りユーザーフレンドリーなシステムが必要でした。

“DigitalMedia の大きな利点は、デジタルシステムが必要とする EDID と HDCP コピープロテクション情報があれば、全てのビデオとオーディオ信号をスイッチ 1 つで操作できると言う点にあります。”アドテックシステムズ・プロジェクトマネージャーのマイケル・メルリ氏は述べます。



クレストロン DM ツールソフトウェアもまた、インストーラーがシステムを簡単に、かつ確実にセットアップする助けになります。デジタルインストール中に起こりやすい問題を診断、解決してくれるので、インストール中に頭を悩ますストレスフルな問題から開放されるのです

システム概要

「今日この時代にアナログシステムを採用することは、わざわざシステムの寿命を短くし、他の機能を制限する事につながるのです」とメリル氏は付け加えます。

それぞれの教室には2つのスクリーンがありました。両脇にプロジェクターがあり、コンピューター、DVD、ケーブル TV、ドキュメントカメラ、また、テレビ会議システムからの映像を映し出します。

「最も基本的なレベルでも、教授陣はドキュメントカメラと、数式やメモを書き込んでいくためのセカンドスクリーンと共にパワーポイントを使って講義の題目を追って行く事ができます。」メリル氏は説明します。

教授陣はまた、クレストロン DVPHD-GB 高画質ビデオアノテータを試用して、画面上の静止中または動いている物をマークアップする事もできます。また、ディスプレイをクレストロン PRO2 コントロールシステムのインターフェイスとして利用し、アノテーションプロセッサにアクセスする事もできます。それぞれの教室には、マルチポイントのテレビ会議のフル機能が付いています。当初学校側は、ウェブ放送のみのシステムを考えていましたが、これらのデバイスには制限がありました。双方向通信機能によって、学部側と学生側どちらもが、いつでもミーティングの為にゲストスピーカーを予約する事ができるようになったのです。

「最近、メキシコからのゲストに、私達のエグゼクティブ MBA プログラムについてテレビ会議で話してもらいました」

さらにエッサー氏は述べました。

利点

当校のチームワークとディスカッションに重きを置く教育方針も維持しつつ、さらにこの新しい建物には、教室以外に学生達と学部スタッフが集まり、交流する場が豊富にありました。

学部スタッフは、テクノロジーが特に効果的だと感じています。学校は、最小限のAVシステムしかない会議室へのシステム追加を再検討する事を IT 部門に申請しました。

「このシステムは小さな教室にも最適なので、学校側は小教室も全体の AV システムに加えたいと言うのです。学校側が、もっと欲しいと言って来ると言う事は、彼らがこの新しいテクノロジーを喜び受け入れているという意味ですから、私達にとっても、特別な励みになりますね。」エッサー氏は述べました。